

令和3年度フェロー認定 (9名)

氏名	大谷 順
認定時の所属	熊本大学
抱負	今日Society5.0でも言われているように、多様な人材育成が不可欠となっています。そのような中、工学分野も文理融合やグローバル化など推進すべき課題は多いと言えます。これまでの個人的経験を生かして工学の重要性を社会にアピールすると共に、国際スタンダードにしていくことに貢献したいと考えています。重要なのは、人・物・事すべてにおけるSustainabilityだと思えます。
氏名	小澤 一雅
認定時の所属	東京大学
抱負	貴学会がこれまで取り組んで来られた社会的課題、例えば震災復興や技術者倫理などの問題は、今後も一層重要性が増していくものと考えられます。私は土木学会を始めとする様々な学術団体、研究機関、公的機関等における活動を通して、これらの問題の解決に努めてきました。また、私が専門とする土木工学、建築マネジメントの分野においては、工学他分野、社会科学等の様々な学術領域への広がりが急速に展開されており、異分野の研究者・技術者が協働するための環境を構築することが活動の重要な目的でした。貴学会のフェローに選定された際には、これらの経験を活かし、工学全体の社会的役割を一層果たせるよう活動を行っていきたいと考えています。
氏名	小長井 一男
認定時の所属	東京大学
抱負	明治12年(1879年)設立の由緒ある工学系学術団体のフェローに推薦されたことを本当に誇らしく思うとともに、いかにその責任が大きいか思い巡らせています。例えるのも憚れますが、奈良時代の高僧、行基の事績を思い出します。当時、僧尼令とあって、仏教の民衆への直接の布教活動が固く禁じられていた中で、その禁を破り、畿内を中心に困窮者のための布施屋9所、道場や寺院49院、溜池15、溝と堀9筋、架橋6所等の社会事業を成し遂げていった行基の土木技術は、その師であり、653年に遣唐使として入唐した道昭譲りとされています。当時の仏教寺院は、祈りの道場というだけでなく、土木、医学、薬学、天文学など最先端の科学技術とセットの総合大学であったように思うのです。現在の高等教育の道場たる大学に長年勤めていた自分の経験を振り返ってみると、科学・技術が細分化し、必然的に忙しいカリキュラムに追われる日常だったように思います。経産省によれば、2017年の時点で欧米やアジアの主要国の研究開発費の中に占める政府負担割合は2割を超えているのに、我が国は僅かに15.41%。教員も学生も忙しく、世界が直面する課題に分野を超えて議論する時間も場所も決して多くなかったように思うのです。現在約100の学協会により構成される日本工学会が、様々な課題の分野横断の議論を踏まえ工学の進展に寄与する場面で、いくばくかの貢献ができれば、これに勝る喜びはないと心ひそかに願っています。
氏名	柴田 雅史
認定時の所属	東京工科大学
抱負	私はパーソナルケア製品に関する産業分野を対象に、コロイド界面化学および色材工学の研究に従事してきた。この分野の材料ならびに製造方法は多様な工学技術の複合で成り立っている。 日本工学会は多くの工学系学会のハブの役割をなす学会であることから、多様な工学分野間の情報交流を促し、横断的に人材教育をおこなうというその役割は今後ますます重要になってくると思う。 私は自身の経験を基に、パーソナルケア産業に関連する種々の工学分野間の、情報交換及び人的交流の場を提供するような活動に携われればと希望している。

氏名	中川 聡子
認定時の所属	東京都市大学
抱負	<p>この度、歴史ある日本工学会のフェローにご認定頂きましたことは私にとって大変光栄であり、身の引き締まる思いが致します。</p> <p>さて時代は、かつての労働集約型から知識集約型社会へと着実に進んでいますが、昨今、SDGsやSociety5.0に向けた産・学・官の動きを見ると、これらを達成するには最先端の科学技術や“破壊的Innovation”が必要であると考えます。そのためには、縦割りによらない異分野との知識集約、すなわち『知の連携』が必須であるというのが私の持論です。日本工学会は、140年以上も前に、7つの異なった学術分野に属する23名の識者によって設立された、まさに知の連携』を具現化した先駆的組織であります。</p> <p>現在ともすれば、日本の科学技術に一時の勢いがなくなったと指摘されますが、日本の科学技術を牽引してこられた先人に、我々は今、何をなすべきかを考え、行動しなければなりません。研究環境の改善や若手の育成、匠の伝承などの諸課題に対し、上述の『知の連携』を実践する日本工学会の活動を通じて、微力ではありますが、全力を尽くす所存であります。</p>
氏名	沼田 淳紀
認定時の所属	飛鳥建設株式会社
抱負	<p>化石燃料に極度に依存し、豊かさを求め、平均寿命、格差社会、絶えない戦争や紛争、グローバル化されたがゆえに瞬く間にパンデミックに陥ったCOVID-19。便利な社会の到来とともに得られるはずであった幸福な社会とは、このような社会であったのだろうか。幸福社会とは現在の延長線上にあるのではなく、そこへ向かうにはどうやら現在大きな変革が必要なようだ。しかし、決して絶望的なのではない。「誰一人残さない」といったSDGsの世界的な合意、デジタル技術の進歩や、再生エネルギーの開発など、夢のある未来への発展に人類は常に挑戦し、生きとし生けるものと共に進化し続けている。この中で、工学の担う役割は、宗教やイデオロギーを超えて極めて重要であることは間違いない。一方で、世界の中で、日本の工学がかつてのように大きな影響力を持たなくなってきていると聞く。中国が台頭する中、独自の伝統文化を持つ日本が、欧米諸国に肩を並べるアジアの代表として、世界の安定的で持続可能な進化に貢献できるように、我々世代が、明日を担う若者ととともに、工学の発展に再度真剣に取り組まなければならない時が来ている。微力ではありますが、このような日本工学の発展に尽力いたしと思ひます。</p>
氏名	発田 弘
認定時の所属	沖コンサルティングソリューションズ株式会社
抱負	<p>我が国におけるコンピュータ発達の歴史は60年以上になりその間に数々の技術的成果を達成し世界に誇れる成果も多数ある。ところが技術遺産の保存に熱心な欧米に比べて我が国の取り組みは弱体でコンピュータに特化した博物館もなく貴重な史料が日に日に失われている。これらの遺産を保存し、我が国のコンピュータ発展の歴史を後世に伝えていくために微力を尽くす所存である。</p>
氏名	松木 英敏
認定時の所属	東北大学
抱負	<p>学際融合分野新規形成の立場から、学会間、特に電気・機械系学会と医学系学会との連携を強めていく活動を通して日本工学会活動の幅を広げる事に少しでもお役に立てれば、と考えております。</p>
氏名	森下 信
認定時の所属	横浜国立大学
抱負	<p>日本工学会の目的は「会員学協会の相互の協力を通じて、工学および工業の進歩発展を図ることにある」としていることは承知しております。様々な学会が工学分野で設立されていますが、その横断的な活動がまだ十分でないと感じています。本来の学問分野は縦割りで発達してきておりますが、社会に対しての貢献は縦割りで機能せず、横断的活動が求められています。機械工学分野でも20を超える学協会があり、十数年前から日本機械学会が提案して機械系学協会連絡会を実施しておりますが、なかなか学協会の壁を低くすることができません。その意味でも日本工学会の活動は高く評価されると思ひます。私自身は浅学非才ではありますが、少しでも横断的活動に貢献できれば有り難いと考えております。</p>